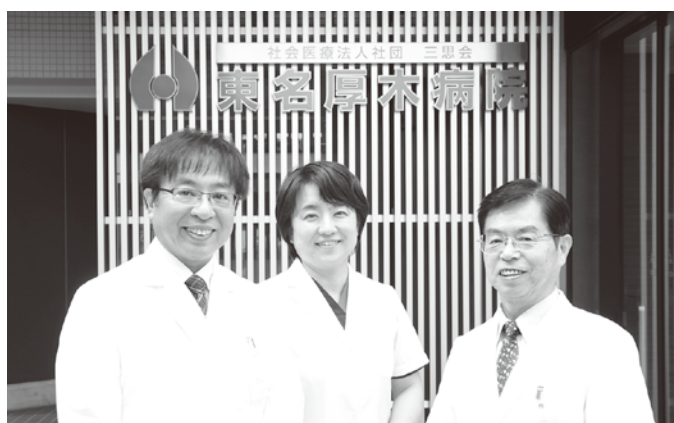




地域密着型の 透析医療で 多くの患者の 生活をサポート

東名厚木病院 名誉院長 富田 公夫（右）
東名厚木病院 透析センター長 大山 聡子（中央）
とうめい綾瀬腎クリニック 院長 田村 博之（左）

**蛋白尿・腎障害が発見されてから
透析まで一貫した治療**

社会医療法人社団三思会は、東名厚木病院（282床）を中心に、神奈川県央地域における透析医療の中核を担っている。同院の透析医療は1986年より開始し、二つの関連クリニックと合計で透析129床、300名ほどの患者を治療している。同院では人工透析センターに加えて、とうめい厚木クリニックを併設し、透析に進まないように栄養指導・生活指導などを加えた集約的治療を行っている。人工透析センターでは、140名の外来透析を受け入れており、血管外科医によるシャント、オンラインHDFなど、病態に合わせた特殊透析を行うことができる。「外来治療から透析導入・治療まで同じスタッフが関わり続けることができるのは、患者さんの不安解消にもつながると思っています」と富田公夫医師。

心・血管合併症や他の一般的な疾患の治療を同じ病院で受けることが可能なことも特筆すべき点だろう。透析患者の骨折や肺炎などの感染症なども入院を含めて迅速な対応が可能だ。

「糖尿病などの腎不全の原因となる疾患と、心不全、網膜症、下肢血行障害などの合併症（疾患）など複数の病気の治療を並行して受けられる総合力が当院・腎センターの強みです」と大山聡子医師は語る。

**地域から信頼され、
患者から愛される病院を目指して**

三思会は「地域から信頼される医療機関」をモットーに、透析施設のなかった愛川町と綾瀬市からの要請に応じて透析クリニックを設立。東名厚木病院との連携体制で、地域医療の拡充に貢献してきた。「透析の患者は定期的な通院が不可欠。車いすに対応した送迎バスや、プライバシーを保てる個室による透析など、患者さんの負担軽減に努めています」と田村博之医師。さらに自宅でも行える腹膜透析も準備しているという。

「透析をしながらも、いきいきとした生活や仕事を続けていたでけるよう、医師・看護師が全力で寄り添って参ります」と大山医師。透析にならないためには早期発見・早期治療が重要で、定期的な健診を受けて欲しいという。



社会医療法人社団 三思会

東名厚木病院

〒243-8571 神奈川県厚木市船子 232
TEL.046-229-1771
<https://www.tomei.or.jp/hospital/>



愛川クリニック

〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 2035-1
TEL.046-284-5225
https://www.tomei.or.jp/aikawa_clinic/



とうめい綾瀬腎クリニック

〒252-1107 綾瀬市深谷中 1-8-20
TEL.0467-70-1115
https://www.tomei.or.jp/ayase_clinic/

